



株式会社 **nancoco**  
住所 岐阜市加納新本町 1-4-701  
TEL 090-6576-8751

ビジネスインタビュー  
**ヒットの兆し**  
Made in Gifu

# 「もしも」の想いを手帳に託して

コロナ禍の時期、癒しを求めてペットを飼う「ペットブーム」が到来。その後も安定した人気が続き、今や全国でペットを飼っている世帯は約五世帯に一世帯の割合に達しています。ペットは家族の一員、かけがえのない存在。そのなかで今回、飼い主の「もしも…」に備えた、ペット専用「ヘルプ手帳」が誕生しました。

発案したのは、株式会社nancoco 代表取締役 荻野朱加さん。イラストレーターとしても活躍中です。

今月号では制作に至る想いや今後の展望についてお伺いしました。

制作のきっかけは、猫を飼っている一人暮らしの友人からの相談でした。

「もし、自分が急病や事故で意識疎通出来なくなってしまう場合、部屋に閉じ込められたペットはどうなってしまうのだろう、と強い不安を感じていました。私自身も猫を2匹飼っていますので、その気持ち痛みほど分かりました。私だったらどうすればいいのだろうと、何とかしたい気持ちは高まるばかりでした」

令和二年、荻野さんが考え付いた答えは、自身の仕事「イラスト」を生かして「伝える」ことでした。その方法は、スマートフォン待ち受け画面に『自宅に猫がいるの

で氣にかけてほしい』という文章に、猫のイラストを添え、壁紙を作成し、SNSで無料配布するという形でした。

「意識したのは、気兼ねなく誰もが日常的に使えるシンプルなデザインです。まずは第三者に気づいてもらえる、ということが大事だと思ったのです。友人のように、家で待つ猫の存在を誰かに気付いてもらいたい、不安な気持ちを少しでも解決したい、そんな想いの人たちは他にもきつと大勢いるに違いないと思いました」

SNSで発信したこともあり反応は荻野さんが考えていたよりかなり大きく、同じように悩んでいる人の多さを改めて実感し、少しは



表紙には手帳を手にとってくれた人へのメッセージが

役に立てたと安堵した瞬間でした。

## 安心を形にしたい

令和四年、猫を守るための想いが新たな開発を生み出しました。それが「ねこヘルプ手帳」です。ヘルプ手帳とは、飼い猫の様子が記録できる母子手帳とお薬手帳の特徴を一冊で兼ね備えた手帳です。手帳を開くだけで、飼い猫に関する情報を把握できる手帳です。名前や性別は勿論、投薬情報からワクチン履歴、かかりつけ医や代理人連絡先まで大切な情報を書き込める手帳です。きっかけは、荻野さん自身の体験でした。

「折しも私が妊娠中で、その時にもらった母子手帳に、『これは…』

心が届きます。

## 進化するヘルプ手帳

猫と一言で言っても老猫、若い猫、オス、メスなど一括りにはいきません。ユーザーから毎日のように多くの声が届きます。そんな声に荻野さんは更に奮起しました。「多頭飼いのため一冊では不便な人、毎日日記のようにペットの様子を書き込みたい方や、そもそも元気なペットばかりではなく、頻繁に病院にかかるペットもいます」

冊子式の手帳では一冊でまとめきれずに、追記を重ねるたびに、書き込みする場所が足りなくなっていました。そこで思い切った記入できる用紙を簡単に追加できるようにバインダー式を開発することを決めました。しかしそうすると、制作にかなりの費用がかかります。そこで「クラウドファンディング」の利用にチャレンジすることにしました。

「使用する紙一つにしても金具や装飾など、業者さんと一から決めていき作り上げていく作業は、イラストレーターとしても大変勉強になりました」

そして令和六年、バインダー式「ねこヘルプ手帳」が完成。来年にはバインダー式「いぬヘルプ手

帳」も誕生する予定です。

ヘルプ手帳は、多くの方々の「ペットを想う気持ち」に寄り添いたいと、まだまだ進化を続けていきます。

## 地域社会のために出来ること

荻野さんは現在、岐阜大学の地域科学部で社会の仕組みについて学び直しています。その理由は友人の相談を受けた時と同じく、自分自身が「何ができるのか」ということへの追求です。

「地震や洪水など想定外の非常時が多くなりました。そのなかにおいてもペットが取り残されないようにするには、今私は『何ができるのか』を考えています。そのためにはしっかりと専門知識を学びたいと思っています。例えば、ペットと暮らす人が益々増えるなか、『ヘルプ手帳』が、個人で努力して持つだけでなく、次は行政と一緒にペットを飼う人すべてが持てるような社会的仕組みが提案できたらいいなと考えています」

そしてもうひとつ。

「高齢者は家の中で倒れることが多く、そうなる前、せつかくの『ヘルプ手帳』が役に立たないこともあります。そのためコンピュー



ターやインターネットなど、情報をやり取りする技術全般を活用して、スマートフォンが動いていなかったら、本人の安否確認に付随してペットを任せられる相手に連絡がいくシステムが構築できないかと、目下勉強中です。動物と暮らす人たちを孤立させないシステムを確立していくことが大事だと思っています」

そのために荻野さんは「ヘルプ手帳」の電子化を目標としています。「ペットの『ヘルプ手帳』は、ペットを想う飼い主に『もしも何かあったら…』の気持ちから誕生したものです。電子化は、平常時からの『もしも…』の準備です」

それは今、取り組む必要があること。

そう語る荻野さんは、ビジネスを超えて社会の変化も「ヘルプ手帳」と一緒に目指します。



株式会社 **nancoco**  
代表取締役 **荻野 朱加** さん